

平成27年度予算見積調書(2月補正予算)

課室名: 産業支援課

担当名: 産学連携・知的財産担当

内線: 3736

(単位: 千円)

| 番号 | 事業名 | | | 会計 | 款 | 項 | 目 | 説明事業 | |
|---|--------------------|-------|--|--|-----|------|---------------------------|----------|-------------|
| B1 | ものづくりのための物流IoT支援事業 | | | 一般会計 | 商工費 | 商工業費 | 商工振興費 | 次世代産業支援費 | |
| 事業期間 | 平成27年度 | 根拠法令 | | | | 戦略項目 | 07 世界水準の中小企業 | | |
| | | | | | | 分野施策 | 030102 新たな成長を導く次世代ビジネスの振興 | | |
| <p>1 事業の概要</p> <p>取引先の在庫状況や配送中のトラックの位置などの物流情報を、IoTを活用して管理・把握する物流管理システムを開発し、スマート工場の生産システムに連携させることで、ものづくり企業のより一層の生産性向上につなげる。</p> <p>(1) ものづくりのための物流IoT支援事業 19,186千円</p> | | | | <p>5 事業説明</p> <p>(1) 事業内容 製造業では、IoT(Internet of Things)(モノのインターネット)やAI(人工知能)を活用した第4次産業革命と呼ばれる生産システムの新たな変革が起きている。この第4次産業革命への対応は製造業にとって喫緊の課題である。このため、県内中小企業が近い将来、確実に直面する第4次産業革命への取組を支援する。特に本事業では、「スマート工場」に出入りするトラックやそれに積載する原材料等の物流情報を「スマート工場」とやり取りすることで最適な生産体制を付与することを目的とする。</p> <p>(2) 事業計画 協力企業の工場に出入りするトラックやそれに積載する原材料等の物流情報を「スマート工場」とやり取りする物流管理システムをSAITEC内に構築し、実証試験を行う「物流テストラボ」の整備・運営を行い、県内製造業に対し、「物流情報を捉えた」新しいスマートものづくりの構築を支援する。</p> <p>(3) 事業効果 平成28年度当初予算事業「スマートものづくり支援プロジェクト」で構築する「スマート工場」と、本事業で構築するIoTを活用したリアルタイムの「物流管理システム」が両輪となり、確実に直面する第4次産業革命に対し、自社のみでは対応が困難な県内中小企業が迅速、適切に対応することが可能となる。このことにより、県内中小企業が第4次産業革命の流れに乗り、高い生産性、生産・物流インフラの高度利用、省エネ等を実現し稼ぐ力を強化することにより、更なる飛躍を図ることができる。</p> <p>(4) 県民・民間活力、職員のマンパワー、他団体との連携状況 セキュリティやコンピューターに関する豊富な知識、経験を持つ職員のマンパワーを活用する。また、神奈川県では官民協働/地域連携のコンソーシアムを構築・運営を行い、IoT対応の製品開発を行う「IoTラボ」の整備・運営を行う。 また、通信ネットワーク分野に高い知見を持つ神奈川県産業技術センターの研究者とも技術面で相互補完しながらより効果的に事業を実施していく。 また、協力機関として、東京都、千葉県、横浜市の公設試験研究機関とも連携し、より効果的に事業を実施していく。</p> | | | | | |
| <p>2 事業主体及び負担区分 県(国:10/10)</p> | | | | | | | | | |
| <p>3 地方財政措置の状況 あり 地方創生加速化交付金(広域版)</p> | | | | | | | | | |
| <p>4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×2.5人=23,750千円</p> | | | | | | | | | |
| 予算額 | | 財源内訳 | | | | | | 一般財源 | 補正後の 予算額 |
| 決定額 | 19,186 | 国庫支出金 | | | | | | 19,186 | |
| 現計額 | | | | | | | | | |